

金型技術産学官で研究会

静岡理工科大が設立総会

静岡理工科大(袋井市)は十八日、機械部品の製造に欠かせない金型技術の発展を産学官で目指す研究会の設立総会を浜松市内のホテルで開いた。金型を手掛ける県西部の中小企業の関係者や研究者ら約百五十人が出席し、技術力の向上や人材育成に向けて協力して

いくことを確認した。

研究会の会長には、日本金型工業会会長を務める小出製作所(磐田市)の小出悟社長が就任。小出社長は「業界の70%が自動車産業に依存している。職人の経験だけに頼るのではなく、IoT(モノのインターネット)の技術活用も意識し

ながら産業の変革を乗り切りたい」と抱負を語った。

研究会事務局によると、設立時の会員企業は三十社弱で、今後も募る。二〇一九年度は金型の故障解析や材料についての勉強会のほか、学生の参加を想定した製造現場の見学会を予定している。



金型技術研究会の会長に就任し抱負を語る小出製作所の小出悟社長＝浜松市中区で

静岡理工科大は金属の精密加工や分析の研究で強みを持つ。野口博学長は「金型は製造業の縁の下の力持ち。学生が積極的に関わること意識向上にもつながりたい」と話した。岐阜大の王志刚副学長も講演し、最新の金型技術を解説した。

(久下悠一郎)